

2021. 4. 25 (日) マタイ24:29～31

24:29 そうした苦難の日々の後、ただちに太陽は暗くなり、月は光を放たなくなり、星は天から落ち、天のもろもろの力は揺り動かされます。

24:30 そのとき、人の子のしるしが天に現れます。そのとき、地のすべての部族は胸をたたいて悲しみ、人の子が天の雲のうちに、偉大な力と栄光とともに来るのを見るのです。

24:31 人の子は大きなラッパの響きとともに御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで四方から、人の子が選んだ者たちを集めます。

<説教>

「あなた（主イエス・キリスト）が来られ、世が終わる時のしるしは、どのようなものですか。」(24:3)という弟子たちの質問にイエスは答えておられます。

まず言われたのは、〈キリストの名を名乗る者が大勢現れ、『私こそキリストだ』と言って多くの人を惑わす〉こと(5)、〈戦争や戦争のうわさを聞く〉ことになるが、それは必ず起こるがまだ終わりではないこと(6)、そして〈民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、あちこちで飢饉と地震が起こる〉こと(7)でした。

「しかし、これらはすべて産みの苦しみの始まりなのです。」(8)と注意をなさり、続けて「そのとき、人々はあなたがたを苦しみにあわせ、殺します。」と始めて、イエスに従う弟子たちの身にこれまた〈必ず起こる〉べき〈苦しみ〉(9)、〈大きな苦難〉(21)について28節までお教えになって来ました。

それは自らを神と宣言し、自分への礼拝を人々に要求する「反キリスト」・「不法の者」（とそれに惑わされ、従い、キリストの弟子たちを惑わし迫害する者たち）の出現を示すものでした。

反キリスト、不法の者によって多くの人々が惑わされ、そういう人々からキリストの名のために憎まれ、苦しめられ、殺されることも覚悟しなければなりません。

不法がはびこり多くの人々の愛—神を愛し、人を愛する愛—が冷える中で最後まで耐え忍んで福音を宣べ伝え、キリストを証しすることは最後まで厳しい戦い、大きな苦難です。

しかし、反キリストとの厳しい戦いの中で、神の恵み・キリストに希望と信頼を置いて最後までキリストに従い、キリストを証しする〈選ばれた者たちのために、その日数は少なくされ〉るとイエスは約束してくださいました。

〈選ばれた者たち〉が受ける〈大きな苦難〉の時は〈人の子の到来〉(27)すなわちキリストの再臨によって終わるのです。

今や〈そうした苦難の日々の後〉(29)になさるご自身の〈到来〉について、その時に神がなさるみわざについてイエスはお教えになります。

〈ただちに太陽は暗くなり、月は光を放たなくなり、星は天から落ち、天のもろもろの力は揺り動かされます。〉(29)

このような表現は主なる神が王として立たれる時とか、神がバビロンやエドムやエジプトといった国をお裁きになるときに神がなさるみわざとして旧約聖書で語られていたことでした（イザヤ13:10、24:21、34:4、エゼキエル32:7,8等）。

そもそも〈太陽〉と〈月〉は神がそれぞれ〈昼と夜を治めさせ〉るために、〈星〉も〈地

の上を照らさせ)るためにお造りになった、言わば力ある被造物、世界の秩序の最初です(創世記 1:16-18)。

先にイエスは〈世の終わる時〉の〈始まり〉として〈戦争と戦争のうわさ〉〈民族対民族、国対国の敵対〉というこの世の権力者の混乱についてお語りになりました。

そんな地上の権力者たちもその恩恵に与り、その働きには逆らえない、世界の秩序の初め、源というべき〈太陽〉〈月〉〈星〉などがその〈光〉を失い、地上を治める力を失ってしまうのです。

そうやって人間であれ天体であれ、被造物(に過ぎない)の光(威光、栄光)は失われ、その力は〈落ちる、すなわち〈天のもろもろの力は揺り動かされ〉るのです。

ヘブル 12:26,27 には次のように書かれています。

〈あのときは御声が地を揺り動かしましたが、今は、こう約束しておられます。「もう一度、わたしは、地だけではなく天も揺り動かす。」この「もう一度」ということばは、揺り動かされないものが残るために、揺り動かされるもの、すなわち造られたものが取り除かれることを示しています。〉

ですから、その時〈天のもろもろの力〉は〈取り除かれる〉のです。

なぜなら、〈そのとき、…人の子が天の雲のうちに、偉大な力と栄光とともに来る〉(30)からです。

〈偉大な力と栄光〉は神、キリストだけが今や文字通り独占すべきものだからです。

神とキリストの〈偉大な力と栄光〉の前には、人間は言うまでもなく、天体までもが「ひれ伏し」「倒れる」「絶える」「落ちる」の別訳)ほかないからです。

到来なさるキリスト、神だけが真の〈偉大な力と栄光〉を帯びておられるので、〈太陽〉(月)〈星〉の光などもう要らなくなってしまうのです。

またはこうも言えるかもしれません。

〈太陽〉〈月〉〈星〉は古今東西、多くの人々にとって強い礼拝の対象としてなっていると考えられます。

そういう偶像崇拝の対象として人気ある〈太陽〉〈月〉〈星〉の威光も絶えてしまうのです。

それらは神などではなかったと明らかになるのです。

人間の罪による墮落のおかげで〈今に至るまで、ともにうめき、ともに産みの苦しみをしている〉〈被造物〉(ローマ 8:22)である天も地も神によっていったん揺り動かされ、取り除かれて、キリストの〈偉大な力と栄光〉にふさわしく、またキリストによって救われた者が住むのにふさわしい「新天新地」に造り変えられるのです。

その新天新地では〈もはや夜がない。神である主が彼らを照らされるので、ともしびの光も太陽の光もいらない。彼らは世々限りなく王として治める。〉(黙示録 22:5)のです

そのように〈人の子が天の雲のうちに、偉大な力と栄光とともに来る〉ことがすなわち〈天に現れ〉る〈人の子のしるし〉です(30)。

〈人の子が天の雲のうちに、偉大な力と栄光とともに来る〉というのは、ダニエル書 7:13,14 に書かれていることでした。

〈私がまた、夜の幻を見ていると、見よ、人の子のような方が天の雲とともに来られた。その方は『年を経た方』のもとに進み、その前に導かれた。この方に、主権と栄誉と国が

与えられ、諸民族、諸国民、諸言語の者たちはみな、この方に仕えることになった。その主権は永遠の主権で、過ぎ去ることがなく、その国は滅びることがない。) (ダニエル 7:13,14)。

イエスはこれまでも何度もご自分のことを〈人の子〉と言っておられましたが、ここで初めてあのダニエルが預言した〈人の子のような方〉〈この方〉とはご自分のことだったのだと明らかになさいました。

〈天の雲〉は、主なる神の臨在や神の栄光の〈しるし〉です。

後に復活のイエスが昇天なさる時、雲がイエスを包み、使徒たちの目には見えなくなった後で、天を見つめていた彼らに御使いは「あなたがたを離れて天に上げられたイエスは、天に上って行くのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになります。」と言いました (使徒 1:9-11)。

そのような〈天の雲のうちに、偉大な力と栄光とともに来る〉キリストによってその時、〈胸をたたいて悲しみ…見る〉者(30)と、〈天の果てから果てまで四方から、人の子が選んだ者たち〉(31)とが分けられ、明らかになります。

黙示録 1:7 には〈見よ、その方は雲とともに来られる。すべての目が彼を見る。彼を突き刺した者たちさえも。地のすべての部族は彼のゆえに胸をたたいて悲しむ。しかり、アーメン。〉とあります。

先にイエスは〈御国のこの福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証しされ、それから終わりが来ます。〉(24:14)と言われました。

〈胸をたたいて悲しみ…見る〉者たちとは、イエス・キリストの〈御国のこの福音〉の〈証し〉を聞いても心頑なに悔い改めなかった者たち、イエスをどこまでも憎み突き刺した者たちです。

イエスによって明らかにされた神の愛、あわれみを最後まで故意に拒んだ者たちです。

そういう者たちにとっては、キリストが〈天の雲のうちに、偉大な力と栄光とともに来るのを見る〉時は、もう既に時遅しなのです。

それこそ、山に逃げても、荒野に逃げても、奥の部屋に逃げても、〈天の雲のうちに、偉大な力と栄光とともに来る〉キリストを見ることになるのです。

もうどうにもならない、さばきと滅びを迎えた悲惨と後悔しかそこにはありません。

一方、〈天の雲のうちに、偉大な力と栄光とともに来る〉キリストによって、キリストが〈大きなラッパの響きとともに〉お遣わしになる〈御使いたち〉によって〈天の果てから果てまで四方から〉〈集め〉られる者たち、〈人の子が選んだ者たち〉がいます。

〈ラッパ〉が吹かれるのは、神の民を召集するとき、安息の年を知らせるとき、神を讚美するときなどでしたから、このとき〈大きなラッパの響き〉が鳴らされるのは実にふさわしいことです。

キリストによって遣わされる〈御使いたち〉は〈救いを受け継ぐことになる人々に仕えるために遣わされる (ヘブル 1:14) のですから、〈天の果てから果てまで四方から、人の子が選んだ者たちを集め〉る働きこそその本領が一番発揮される時と言えるでしょう。

それにしても〈人の子が選んだ者たち〉をキリストが (御使いたちを遣わして) お集めになるのです。

〈人の子が選んだ者たち〉、〈選ばれた者たち〉(22)は、当然〈全世界に宣べ伝えられ

〈証し〉された福音を信じた人々、イエス・キリストを信じる者たちです。

そして大きな苦難の日々の中で、神のあわれみ、恵みによって最後まで耐え忍んだ人です。

それでも、救いは、救いの完成は最後の最後まで神の側から、キリストの方からの働きかけによって成されるのです。

反キリストとの闘いに伴う、キリストの名のための大きな苦難は並大抵のものではないはずで

す。そんな中をくぐり抜けて来た人は〈生き残っている〉(Iテサロニケ 4:17)としても、いわば「息も絶え絶え」状態なのです。

そんな人にできるのは精々地上で〈身を起こし、頭を上げる〉ことです(ルカ 21:28)。

〈雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会)い〈いつまでも主とともにいることになる〉(Iテサロニケ 4:17)のは全面的に主、キリストの力、みわざによることなのです。

〈天の雲のうちに、偉大な力と栄光とともに来る〉キリストは、ご自分の御使いによって〈天の果てから果てまで四方から〉、ご自分が選んだ者たちをお集めになってくださいます。

そしてこの場合もまた、山に逃げていても、荒野に逃げていても、奥の部屋に逃げていても、一人一人を必ず尋ね求め、見つけ出し、ご自分のみもとに召し集めてくださいます。

私たちはそういう、〈選ばれた者たち〉〈人の子が選んだ者たち〉として召されていることを堅く信じて、〈天の雲のうちに、偉大な力と栄光とともに来る〉キリストを待ち望むのです。

ならばキリストの名のための大きな苦難の日々を、これもまた主のあわれみ、恵みにより、主の力と助けによって、最後まで耐え忍ぶのです

「わが身ののぞみは ただ主にかかれり」(讚美歌 280 番)です。